

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572207736		
法人名	有限会社 ホサカ		
事業所名	グループホーム ゆとりの里		
所在地	秋田県山本郡三種町浜田字村下343-1		
自己評価作成日	令和2年11月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和2年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム周辺は田園地帯ということもあり、のどかで四季折々の風景を楽しみながら生活でき、居室内は利用者様の状態や希望に合わせた住環境作りに努めている。また、開設当初からの職員や在職期間の長い職員配置になっており家庭的な雰囲気での馴染みの関係やご家族様との信頼関係の構築に努め、より良いサービスの提供を心かけている。食事やおやつ作りは地域ならではのメニューを取り入れるなど食を楽しんでもらえる工夫も心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の入居に至るまでの生活や思いを大切なものとして受け止め、具体的な支援を介護計画に表して安心できる生活となるよう取り組んでいます。高齢ながらも元気な方が多く、歩ける方には歩いていただき、便座に座れる方にはトイレで排泄していただき、機能の低下防止、維持改善を図って利用者の持てる力を活かしたケアに努め、そのためのホーム内の造作においても代表の手によるテーブルや足台等、利用者に配慮した工夫が随所にみられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム玄関にホーム理念、スタッフ理念を掲げている。スタッフ理念は毎年職員会議において理念に対する自己評価を行い、出来ている事、出来ていないことを再確認するとともに理念を共有し実践に取り組んでいる。	自己評価を行うことで職員に気づきを促し、共有化と実践に向けて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームでの食材は近隣のスーパーマーケットや産直野菜センターでの購入やボランティア来訪等で交流を図っている。また、通い慣れた美容室の継続利用ができるように支援している。	新型コロナウイルスの影響で来訪者の制限はありますが、近所のお店とは便宜を図っていただくこともある程馴染みの関係が保たれています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議においてホームで抱えている困難事例を取り上げ支援の状況を伝えるとともに意見交換を行いながら理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事故報告やホームの現状についての疑問について、参加メンバーや地域包括支援センター職員からの専門的なアドバイス等を頂き、その結果を職員会議等で職員へ伝えサービス向上に努めている。	現在はホームの取り組みを書面で報告するにとどまっています。対面で開催されていた時には参加メンバーからさまざまな意見や提案が出され、サービスの向上に繋げていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加により情報交換の場としている。電話等による空室情報や困難事例、感染症対策等の相談を行ったりしている。	窓口に出向いたり電話でも相談に対応していただいで協力関係が築かれています。包括支援センター主催の多職種連携研修会にも積極的に参加して情報収集に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに基づいたケアの実践と利用者様の持てる能力を活かしたケアを心掛けている。	研修等を通じて職員の意識の向上が図られています。業務で発生する疑問についても日常的に話し合い、身体拘束のないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の外部研修の受講により虐待や権利擁護について学ぶ機会を設けている。また、内部研修でチェックリストによる自己評価を行うことで虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	三種町社会福祉協議会より説明を受けるなど制度についての理解を深めている。困ったときには地域包括支援センターや三種町社会福祉協議会支援担当職員へ相談し対応するように心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に時間をかけ十分な説明を行っていると思っている。今までに契約や解約などによるトラブル等は特にない。入居前でも説明等を行い理解を深めていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決ポスターの掲示や目安箱を設置している。契約時には他の苦情相談機関についての説明をしている。日常会話や表情からも理解できるよう職員間で情報交換に努めるとともに面会時などこまめに声をかけるなどしている。	家族は気軽に話してくれており、面会を制限している現状においては日常の写真アルバムにして報告書と共に送付し、意見の引き出しに努めています。利用者の意見も代表に伝えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や申し送りノートなどを活用し職員の意見や提案を聞く機会があり運営に反映できている。また、職員が直接、代表者へ意見や提案ができる環境になっている。	代表が毎日ホームを訪れており、職員とは話しやすい環境がつけられています。職員会議で出た意見、提案も代表に伝えられ、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績や希望休の取得、勤務時間、勤務日数の調整など生活環境に配慮しながら就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し研修の機会を設けている。希望する外部研修や力量に合わせた外部研修の受講の機会を設けている。新人職員へは内部研修により技術の習得の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田県GH連絡協議会に加入し講演会や研修会への参加、三種町福祉課主催の地域での研修会への参加で交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様、利用されていたサービス機関等より不安なこと困っている事や要望等を面会等時間をかけて聞き、出来る限りご本人様に寄り添い安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の話しやすい環境作りやホームの日常生活を実際に見ていただきながら、困っている事や入居後の不安なことなどを説明し思いを受け止める努力をしている。また、担当ケアマネジャーからも話を聞くなど対応に努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設で使用する雑巾縫いをお願いするなどご利用者様のできる事については生活の中に取り組むように努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月ごとのお手紙でご利用者様の近況を随時報告し、困ったときには電話や面会時に相談しながら支えていけるように努力している。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の意見を尊重してできる限り希望がかなえられるように努めている。かかりつけ医院や通い慣れた理・美容院の利用などは継続利用できるように努めている。	毎夕食後、家族と携帯電話で話している利用者がある反面、コロナ禍にあって例年のようには家族や友人との交流ができなくなっており、利用者の心情を汲み、関係が途切れないよう検討しながら支援しています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の日頃の関係を把握しつつ出来る限り孤立するご利用者様がないように場面ごとにソファやテーブル席の配置など考慮し良好な関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて日常生活等についての相談等問い合わせに対しての情報提供やその後の状況確認についての連絡に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様一人一人の思いを大切にするとともにご本人の希望を把握することに努めている。担当職員がアセスメントを行い現状の把握に努めている。	利用者同士の会話から思いを知ることもあり、気づいたこと等を記録してアセスメントに繋げています。管理者は記録の大切さを職員に伝え、スムーズに対応できる工夫を検討しています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活していく日々の会話の中からの聞き取りやご家族様や利用されていたサービス事業所などからも経過を把握できるように努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の毎日の過ごし方や健康状態を細かに見守り、個人記録や申し送りノートを確認することで現状の把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の面会時にケアのあり方についての要望を聞き取り職員会議等においてその要望についての担当職員や他職員の意見やアイデアを取り入れ、ご本人様の状態に応じた介護計画の作成に努めている	管理者が利用者及び担当職員から聞き取りを行い、カンファレンスで他の職員とも意見を出し合って介護計画を作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や申し送りノート、業務日誌などを活用し日々の様子やケアの実践等の情報の共有を図りながら介護計画の見直しに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止の為地域交流の機会が減り、施設内での行事を多くすることで持てる能力を発揮しながら楽しむことができるように支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望のかかりつけ医を確認し継続している。心のケアも含め一貫した治療ができるように支援している。	希望に沿って対応している他、協力医をかかりつけ医としている利用者も多く、通院が困難な場合は往診にも対応していただいています。協力医、薬局とは連携が図られており、歯科診療については必要があれば訪問診療を受けることができます。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医院の看護師との関係作りは良好で、受診前に電話での相談や状態報告などができる関係性ができている為スムーズな受診ができている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には付き添い情報提供を行い本人、家族が安心して治療できるように支援している。主治医や看護師とも話し合う時間を作ってもらい早期に退院できるように努めている		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師不在であるというホームの状態や方針を明確に説明し理解いただいている。	看取りの支援は行っておらず、次の支援に繋げるために居宅介護支援事業所と連携し、家族が安心できるよう対応しています。重度化した場合は医師と相談して対応できる範囲で支援しています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新型コロナウイルス感染症の影響で外部からの指導を受けることはできなかったが心肺蘇生や異物混入時の対応について内部研修を行っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練は毎月1回行っている。災害時の避難等も地区消防団へ協力を依頼、ご家族や自治会の方へも運営推進会議を通じて理解・協力が得られるように働きかけている。	訓練後に反省会を行って次に繋げ、緊急時に備えています。代表宅が近く、地域の協力者には利用者の見守りをいただいています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の人格やプライバシー、生活状況に合わせた言葉遣いができるように努めています。入浴や排泄介助時には利用者様の自尊心を傷つけないように節度ある態度、丁寧な言葉かけを心がけている。	利用者に合わせた言葉遣いを心がけています。職員の不適切な行為があった場合は、利用者の穏やかな生活に繋げるためにもその時点で注意し、反省を促すこともあります。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が毎日の生活の中で気持ちや希望を表し自分で決定し実践できるように配慮している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴希望や休息、お茶タイムには緑茶だけでなくコーヒー・紅茶・ジュースなども取り入れ一人ひとりの希望や体調に合わせた生活ができるように支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する理・美容院の利用や訪問して頂いたり季節に合わせたおしゃれができるように洋服や身の回り品の購入を支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月のおやつ作りや食材の下ごしらえ、だまこもち作りなど利用者様の力が発揮できる場面を作りながら食事を楽しんでいただいています。昼食は一緒にテーブルを囲み職員が介助や声掛けを行い自力で食事ができるよう支援をいっています。	感染防止のために外食は中止していますが、園庭でのきりたんぽ会を楽しんでいます。利用者の希望を献立の参考にしたり、利用者ができることを一緒にいき、介助の必要な方も一緒に食事をしています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態は入居者様の状態に合わせ主食・主菜・副菜などバランスの良い献立を工夫している。外部の栄養士より行事等に参加いただき食事の指導・助言をお願いしている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔洗浄や歯磨きを行い清潔が保持できるように努めている。夕食後には義歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の身体状態や排泄パターンの特徴を理解したうえで声掛けや、食事前にはトイレ誘導による排泄を行っている。また、失禁対策として快適性を考えたパンツ・尿取りパットの使用を行っている。	その人に合った誘導の仕方に対応し、トイレでの排泄を基本に支援しています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳や乳酸菌飲料、お茶などの水分を摂り、散歩や軽い体操をするなどなるべく体を動かすようにしている。水分不足にならないようにチェックし便秘予防に努めている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の意思を尊重し入浴の支援を行っている。ゆず湯やしょうぶ湯など季節の風習を取り入れるなど入浴時に楽しんでいただけるように支援を行っている。	ゆず湯等の季節のもので雰囲気を楽しめるよう工夫しています。職員2人体制で対応する方もおりますが、利用者全員が浴槽に浸かって入浴を実感しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの生活習慣や状態に合わせて居室への誘導を行い安心して休息できるように支援や声掛けを行っている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬中の薬の用量・効能・副作用の一覧表を作り理解に努めている。薬を一包化にして服薬しやすいように努め、変更された薬などに気を付け症状の変化の確認に努めている		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴を理解するとともにできることは見守り支援をしている。天気の良い日にはホーム庭で散歩やお茶を楽しんだり気分転換できるように心がけている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	行事などの参加やドライブ、買い物など本人の希望に添って外出できるように支援をしている。お寺の参拝、葬儀への参列など家族の協力のもと支援している。	新型コロナ発生以降の外出は減っていますが、感染防止対策をしてドライブしたり、園庭で食事会や桜の花見を実施し、お茶をいただいたりしてホームの外で過ごせる機会をつくっています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ノートに収支を記入し、所持金の残高を職員と一緒に確認しお金を所持するなど利用者様の能力に合わせた支援を行っている。また、希望があれば職員と買い物に出かけ、支払いをされる。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも要望があるときは電話をかけて差し上げている。ご家族等よりかかってきたときには気兼ねなく使用して頂いている。手紙や年賀状の支援も行っている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間においては利用者様に不快な思いが生じないように他利用者様・職員の声・テレビの音量等に配慮している。また、季節の花や置物、利用者様と一緒に作った貼り絵を飾るなど居心地の良い空間作りをしている。	代表の手造りのものが職員、利用者にとって使い勝手良く設置され、また、温湿度計が共用の場所及び各居室に設置されており、定期的に換気をしながらか感染予防に努めています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	北側ホールには椅子と本棚を設置し、一人で過ごされたり、仲の良い利用者様で話をされたりしている。気の合う利用者様同士が思い思いに過ごせるように職員が把握し、ホールのソファやテーブル席の配置を工夫している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活に合わせてテレビを置いたり写真や思い出の品等を自由に飾るなど利用者様が居心地よく過ごせるように工夫している。	利用者の状態に応じてベッドを設置し、位牌を置いている利用者もいて本人にとって安心できる居室となるよう環境を整えています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールや居室は手摺等を設置し危険防止に努めている。家具の配置や車いす・老人車の置き場所にも配慮し身体機能を活かしてできるだけ自立した生活が送れるように安全な環境作りを心がけている。		